

未来を発見、
クーニユのテクノロジー



株式会社タムラ製作所

証券コード：6768

第92期

株主通信

2014.4.1 ▶ 2015.3.31



株主の皆様へ

株主の皆様には、格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

ここにタムラグループの2014年度（第92期）株主通信（2014年4月1日から2015年3月31日まで）をお届けし、営業の概況、当社の取り組み、ならびに決算の概況をご報告させていただきます。

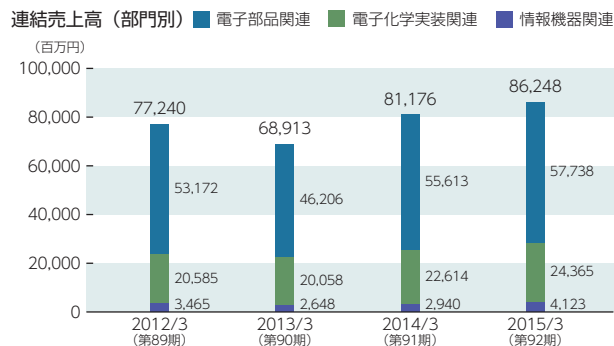
株主の皆様におかれましては、変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2015年6月 代表取締役社長 田村 直樹

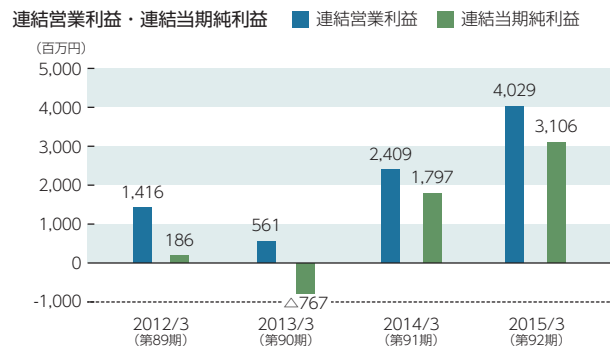
当期の概況

当連結会計年度（2014年4月1日から2015年3月31日まで）における世界経済は、米国が雇用情勢の改善や企業業績の回復で好調に推移すると共に、欧州も緩やかに回復基調で推移いたしました。一方、中国や新興国の経済成長には若干減速が見られるもの

連結財務ハイライト



(注) 1. 各セグメントの外部顧客に対する売上高（セグメント間の内部売上高を除く）を表示しております。
2. 各連結会計年度の連結売上高合計には、その他事業（運輸・倉庫等）が含まれております。



の、引き続き成長を続けております。日本経済も、企業収益の改善や設備投資需要の持ち直しにより、緩やかな回復が進みました。

当社グループに関わるエレクトロニクス市場では、夏場までエアコンを中心とした家電関連の需要が好調に推移し、秋口からは大手メーカーの新機種投入に伴いスマートフォン・タブレットPC関連市場が活況を呈しました。産業機器などの設備投資関連は、グローバルな景気回復や日本における設備投資政策減税の実施を背景に、年度を通じて堅調に推移いたしました。

このような状況の下、当社グループでは収益性の拡大を最大の目標に掲げる中期経営計画に従い、高付加価値製品の創出と、ターゲット市場への拡販を鋭意進めました。また、当社における海外生産比率の高い事業では、昨今の為替の円安傾向は減益要因になりますが、きめ細かな個別顧客対応及び原価改善・管理の徹底などにより収益の確保に努めました。

その結果、当社グループの当連結会計年度の状況といたしまして、売上高は862億4千8百万円（前期比6.2%増）、営業利益は40億2千9百万円（同67.3%増）、経常利益は40億9千8百万円（同41.8%増）、当期純利益は31億6百万円（同72.8%増）となりました。なお、当期純利益は1985年3月期（25億6千7百万円）以来の過去最高益更新となりました。

当期の業績

売上高 **862億4千8百万円**
(前期比6.2%増)

営業利益 **40億2千9百万円**
(前期比67.3%増)

経常利益 **40億9千8百万円**
(前期比41.8%増)

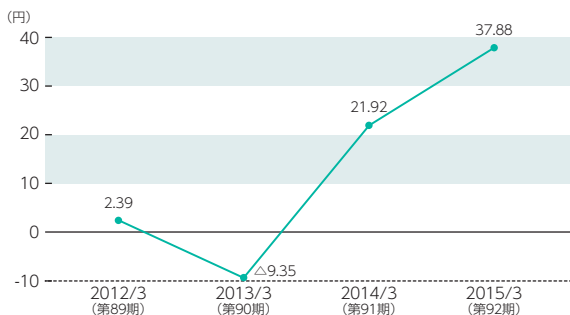
当期純利益 **31億6百万円**
(前期比72.8%増)

1株当たり配当金

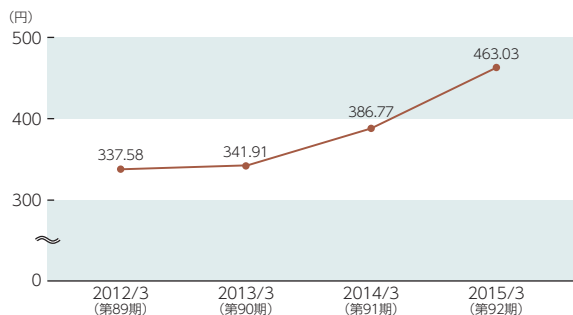
	当期（第92期）	前期（第91期）
1株当たり中間配当金	3円	3円
1株当たり期末配当金	4円	3円
1株当たり年間配当金	7円	6円

(注) 当期の期末配当金には創業 90 周年記念配当 1 円を含みます。

連結1株当たり当期純利益



連結1株当たり純資産額



中期経営計画の総仕上げとして グローバル展開のさらなる強化を図ります。

全事業セグメントが好調に推移し、 増収・大幅増益

―当期1年間を振り返り、総括をお聞かせください。

当期は、高付加価値製品の創出とターゲット市場への拡販により、3事業セグメント全てが売上拡大と収益性の向上を果たし、連結業績は増収・大幅増益となりました。特に当期純利益は、1985年3月期以来30期ぶりに過去最高益を更新する結果となりました。地域別に見ると、日本国内は円安の影響を受けながらも黒字を確保し、アジア、ヨーロッパ、南北アメリカのいずれも利益を伸ばしました。

電子部品関連事業は、エアコンなどの家電・住宅分野、ロボットなどの産業用機械の伸びを受け、リアクタ、トランスを中心に売上が増加するとともに、生産効率の改善や高付加価値製品の拡大により、大幅な増益となりました。

電子化学実装関連事業は、戦略製品であるスマートフォン向けのソルダーレジストが堅調に推移し、実装装置も売上が伸長し、増収・増益となりました。

情報機器関連事業は、放送機器市場の需要回復を受けて前期までの低迷を脱し、音声卓「NTシリーズ」がキー局・地方局に多数納入され、増収・黒字回復を果たしました。

―今後に向けてどのような布石を打ちましたか？

電子部品関連事業では、グローバル生産体制の最適化に向けて昨年10月、ミャンマーに生産拠点Earth Tamura Electronic (Myanmar) を合併設立しました。これにより中国で生産し中国国外に輸出する一部のトランスや温度ヒューズ等の製品については、今後、ミャンマーへの生産シフトを進めていきます。また、同社ではEMS事業を立ち上げており、顧客企業の製造委託ニーズに応えていきます。

各事業分野で技術を革新し、新製品開発を推進

―電子部品の新製品開発状況をご説明願います。

当社は、株式会社光波とともに酸化ガリウムを使った高輝度LEDの開発に取り組んでいますが、その開発の一環として生まれたYAG単結晶蛍光体に優れた特性を見出し、本年中の量産開始に向けて製品化を進めています。

電子部品の開発においては、この他にコア材を自社開発したリップルノイズ除去用の車載リアクタの量産を2014年11月にスタートしました。今後ハイブリッド自動車用の昇圧リアクタにも自社開発のコアを使用した開発品のメーカー採用を目指します。

―電子化学材料と実装装置についてはいかがですか？

電子化学材料では、ウェアラブル製品向けの微細部品の実装に最適な接合材料や、基板表面をデザインに反映させるソルダーレジストのカラーバリエーションなどを開発しました。また、車載関連も新たな材料開発を進めています。

実装装置では、生産ラインのモジュール化を提案するポイントディップ装置「TPシリーズ」が好評を博しました。部品の後付けなどに対応するための拡張・増設が自在かつ容易で、ラインの無人化・省人化に大きく寄与する製品として、引き続き自動車関連メーカー等への導入拡大が期待できます。

収益性のさらなる向上と非日系顧客の拡大が課題

―中期経営計画の進捗と最終年度の見通しは？

3カ年中期経営計画「Biltrite Tamura」は、「健全な経営体質を作る」「最適なグローバル体制を作る」「立派な製品を作る」の3つの取り組みを通じ、収益性の向上を目指すものです。この2年間で収益改善は着実に進んでいますが、目標とする「営業利益率7%」に対しては、円安の影響等を受けて遅れが生じており、当期の結果は4.7%、計画最終年度の次期（2016年3月期）は6.1%となる見通しです。

また、最適なグローバル体制づくりの目安とする「固定費海外比率50%」については、達成の可能性が高まっていますが、もう一つのグローバル指標として掲げた「非日系顧客比率30%」については、現状約20%にとどまっています。

以上を踏まえ、当社は引き続き収益性の向上を追求しつつ、非日系顧客の拡大に向けて、欧米市場での営業を強化していきます。同時に、中国からミャンマーやバングラデシュへの生産移管を進め、アジア圏全体の見直しを図ります。



代表取締役社長 田村 直樹

次期の連結業績は、売上高880億円（当期比2.0%増）、営業利益54億円（同34.0%増）、経常利益54億円（同31.8%増）、当期純利益40億円（同28.8%増）を予想しています。

―株主の皆様へのメッセージをお願いします。

今回の期末配当は、普通配当1株当たり3円に加えて、創業90周年記念配当同1円を実施させていただきました。これにより、中間配当の同3円と合わせた年間配当額は同7円（連結配当性向18.5%）となりました。

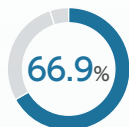
連結業績における当期純利益は増加しているものの、当社単体の利益剰余金が依然として低水準にあるため、今後はこれを積み上げて安定した財務基盤を確保し、株主の皆様への還元を充実させてまいります。

おかげさまで当社は、経営体質を順調に改善しつつあり、タムラならではの製品による社会への貢献も着々と実現させています。この成長性をさらに高め、皆様に信頼される企業として発展し続けてまいります。

株主の皆様におかれましては、これからも当事業へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

POWER REPORT

セグメント別概況

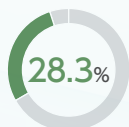
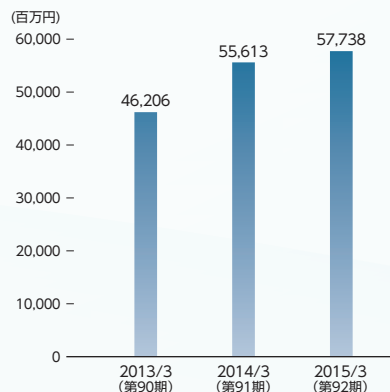


電子部品関連 Electronic Components

電子部品関連事業では、夏場までエアコンを中心とした家電関連の需要が好調に推移いたしました。秋口からは季節変動に伴い下降傾向で推移すると共に、エコカー関連が原油安に伴い米国などで需要減速するなどの向かい風も生じました。一方、産業機械関連はグローバルな景気回復や国内における設備投資政策減税の実施などを背景に、年度を通じて堅調に推移いたしました。海外生産比率の高い当事業では、第3四半期以降に急激に進行した円安は減益要因となりましたが、為替変動に対する原価管理の強化、生産効率の改善や高付加価値製品の拡大、業務・設計の標準化などに取り組み、収益の確保に努めました。

その結果、売上高は577億3千8百万円（前期比3.7%増）、セグメント利益は14億8千6百万円（同187.7%増）と、大幅に利益が拡大いたしました。

連結売上高（電子部品関連）※

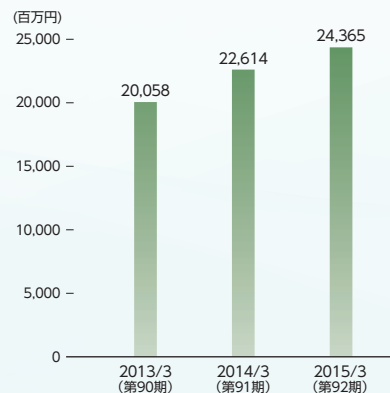


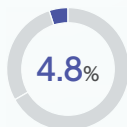
電子化学実装関連 Electronic Chemicals / FA Systems

電子化学事業では、秋口より大手メーカーの新機種投入に伴いスマートフォン・タブレットPC関連の生産が立ち上がり、年明けも高水準のニーズが継続して堅調に推移いたしました。一方、それ以外の分野は、新興国経済の減速や、個人消費の引き締めなどを背景にやや力強さを欠く推移となりました。こうした状況に対し、スマートフォン・タブレットPC関連、車載関連、エネルギー関連の3つの伸長市場をターゲット市場に定め、新製品の投入や新規顧客開拓を進めております。また、実装装置事業では、グローバル競争の激化により市場環境は厳しくなっているものの、設備投資需要の回復と共に売上は増加傾向で推移しております。

その結果、売上高は244億3千9百万円（前期比7.6%増）、セグメント利益は29億4千万円（同10.0%増）となりました。

連結売上高（電子化学実装関連）※



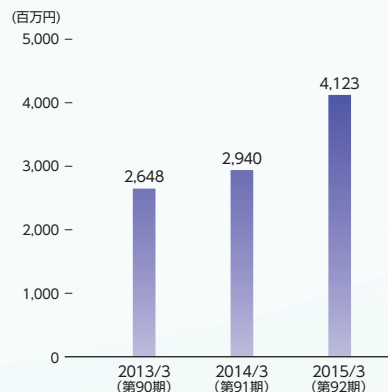


情報機器関連 Information Equipment

情報機器関連事業では、設備投資需要の回復と共に、国内外の放送機器市場で引き合いが増加しており、年度末に向けて当社の音声卓のフラッグシップモデル“NTシリーズ”がキー局、地方局へ相次いで納入されました。また、セキュリティ関連の需要も高まっており、今後に向けた引き合いや受注も堅調に推移しております。電波法改正に伴う新しい周波数帯に対応したデジタルワイヤレスマイクシステムの販売に関しては、当初予定よりスロースタートとなっておりますが、新製品の投入を進め、この事業機会を最大限に生かしていくための取り組みを強化しております。

その結果、売上高は41億8千3百万円（前期比42.2%増）、セグメント利益は3億7千9百万円（前期は3千2百万円のセグメント損失）と、黒字転換のうえ大幅に収益性が向上いたしました。

連結売上高（情報機器関連）※



- ※ 1. 売上高については、文中はセグメント間の内部売上高を含めており、グラフは外部顧客に対する売上高（セグメント間の内部売上高を除く）を表示しております。
2. セグメント利益は、セグメント間取引消去及び本社部門負担の未来開発研究費用控除前の営業利益と調整を行っております。



超高輝度・ハイパワー白色光源に適した YAG 単結晶蛍光体を開発 ～レーザーヘッドライトなど LED 光源では困難な超高輝度製品への応用に期待～

YAG 蛍光体は、LED 照明等における青色光の白色化に使用されている材料です。

従来の LED で多く使用されている YAG 蛍光体は、材料の粉末を 1300℃～1700℃ 程度で加熱してつくる「焼結 YAG 蛍光体」というもので、蛍光体温度が 100℃ から 150℃ 以上になると急激に発光強度が弱くなるという課題がありました。

タムラ製作所とグループ会社の（株）光波は、国立研究開発法人物質・材料研究機構（NIMS）と共同で、融点（約 2000℃）以上まで温度を上げ、液状から結晶成長させる方法で、150℃ 以上の高温でも効率が下がらない YAG 単結晶蛍光体を開発することに成功しました。

プロジェクターや自動車のヘッドライトなど、ハイパワーな超高輝度製品での応用が期待されています。

この開発成果は、既に国内で 2 件の特許を取得、他に 5 件の国内、海外への特許出願済みです。



YAG 単結晶蛍光体プレート



YAG 単結晶蛍光体パウダー

PRODUCT REVIEW

暮らしと環境を支える

温度ヒューズ付き抵抗器 / メタルクラッド抵抗器



電気自動車をはじめとするさまざまな環境貢献製品に採用。機器への突入電流等を防止してトラブルから製品を守っています。

車載用リアクタ



ハイブリッド車・電気自動車などの電圧を最適に制御するための基幹部品。高信頼性・安全性でエコドライブを支えます。

コイル



自動車電装品のノイズ低減やエネルギー効率改善のための部品。自動車のエコ・安全・安心を支えています。

ソルダーレジスト



プリント基板を酸化から守り、絶縁性を保つ大切な役割を果たしています。プリント基板の顔であることから、外観・中身（信頼性）ともこだわります。

ソルダーペースト



はんだ合金を粉末化し、フラックスを混ぜることのできるクリーム状にしたはんだ。いち早く鉛フリー化に取り組み、お客様のニーズに応えます。

大型トランス・リアクタ



大規模な風力発電、太陽光発電設備等において、大型トランスは電圧変換、リアクタは電圧制御やノイズ除去のための基幹部品。省エネルギー、クリーンエネルギーに貢献します。

白色反射材



太陽光発電パネルの背面に塗布し、太陽光の反射率を高め、発電効率向上を助けます。反射シートの代替として活用でき、歩留まりの向上に寄与します。

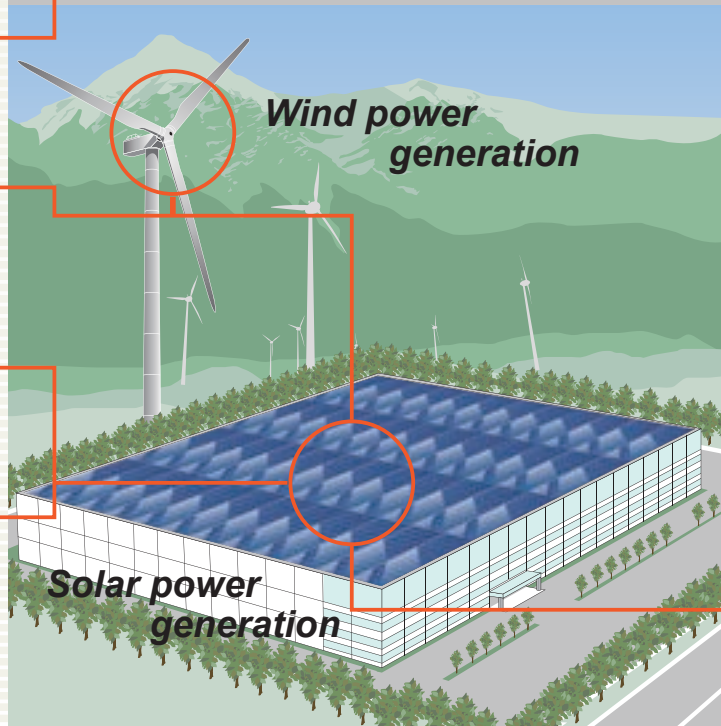
超低残さフラックス



バスバーを使用した太陽電池パネルの接合向けに開発しました。はんだ付け後、残さがのりません。

～省エネ・創エネに貢献～

未来を創るさまざまなフィールドでタムラ



のテクノロジーは活躍しています。

Smart phone
Tablet PC



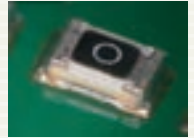
■ AC アダプタ

鏡面仕上げのスタイリッシュなUSB型ACアダプタです。10Wタイプですので急速充電に対応し、またタブレットPCにもご利用いただけます。



■ 導電性接合材

金属的接合と樹脂の硬化による接着を同時に行う、新しい接合材料です。鉛フリー・VOCフリーで環境に配慮しています。また、低温接合によるCO₂削減が期待できます。



■ 透明絶縁材

スマートフォンやタブレットPCなどに使われているタッチパネルの液晶画面向け透明絶縁材です。有機物にも無機物にも対応でき、印刷タイプやインクジェットタイプで、工程・コスト削減も期待できます。



■ 黒色吸収材

プリント基板やフィルムの表面に塗布して、LEDの発光を際立たせます。配線を覆い隠すなど、デザイン性の要求にも応えます。



■ 電源モジュール

高効率DCコンバータの機能をパッケージ化しました。お客様の製品にぴったりの高性能電源(高効率・低待機・静音・小型)を、簡単に設計できます。



■ リアクタ

パワーコンディショナーやエアコンディショナー等における電圧制御やノイズ除去のための基幹部品。省エネルギー、クリーンエネルギーに貢献します。



■ 電流センサ

自然エネルギーの有効利用には、機器の電流を高精度に監視する必要があります。充実したラインナップ(電流レンジ、精度レンジ)で、省エネ・創エネ・蓄エネに貢献します。

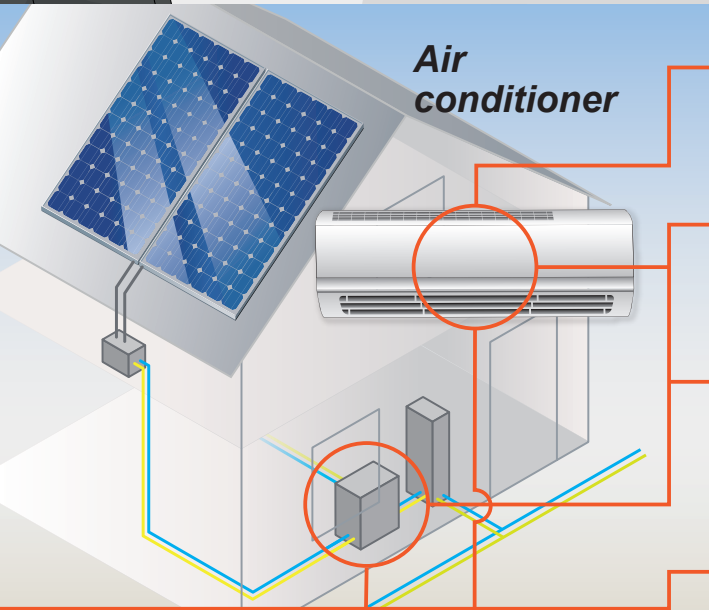


■ 温度ヒューズ

さまざまな電化製品に組み込まれ、温度が所定以上になったときに切れ、回路を完全に遮断し、機器の異常を防ぎます。



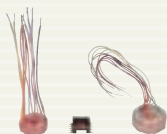
Air conditioner



Power conditioner

PRODUCT REVIEW

社会と産業を支える



宇宙トランス・リアクタ

電力系トランス・リアクタでは国内唯一のJAXA（宇宙航空研究開発機構）規格認定を取得。人工衛星や打ち上げ用ロケットで活躍しています。



AC アダプタ

光回線終端装置（ONU）に安定した電源を供給します。雷などの外来ノイズにも強く、インターネットや電話などの通信ライフラインを支えます。



圧電トランス

圧電セラミックスの共振現象を利用し、高電圧を効率よく作り出します。レーザープリンタの印刷用電圧に使われ、省エネルギーに貢献します。



ソルダーレジスト

プリント基板を酸化から守り、絶縁性を保つ大切な役割を果たしています。プリント基板の顔であることから、外観・中身（信頼性）ともこだわります。



ソルダーペースト

はんだ合金を粉末化し、フラックスを混ぜることでクリーム状にしたのはんだ。いち早く鉛フリー化に取組み、お客様のニーズに応えます。



フラックス

タムラの材料開発の礎となったフラックス。はんだ付けされる金属面の酸化膜を化学的に除去し、はんだのぬれ性・広がり性を確保する材料です。



リフロー
はんだ付装置



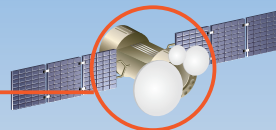
ウェーブ
はんだ付装置

はんだ付装置

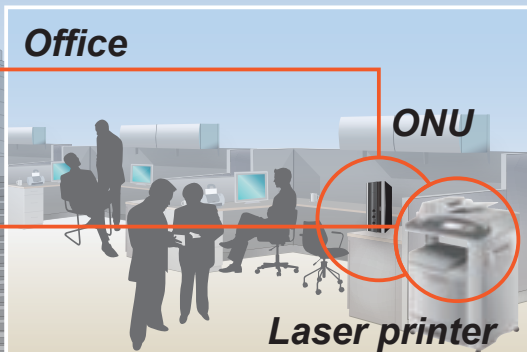
プリント配線板の実装に欠かせないはんだ付装置。鉛フリーはんだ付装置のパイオニアとして、省エネ・環境配慮に寄与しています。

～高信頼、高機能、高効率に貢献～
見えないところでもしっかりとタムラのテク

Artificial satellite



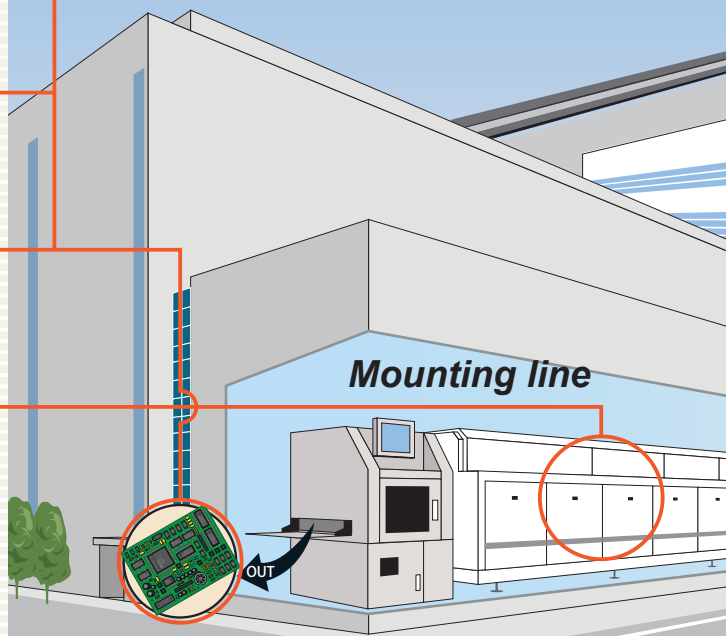
Office



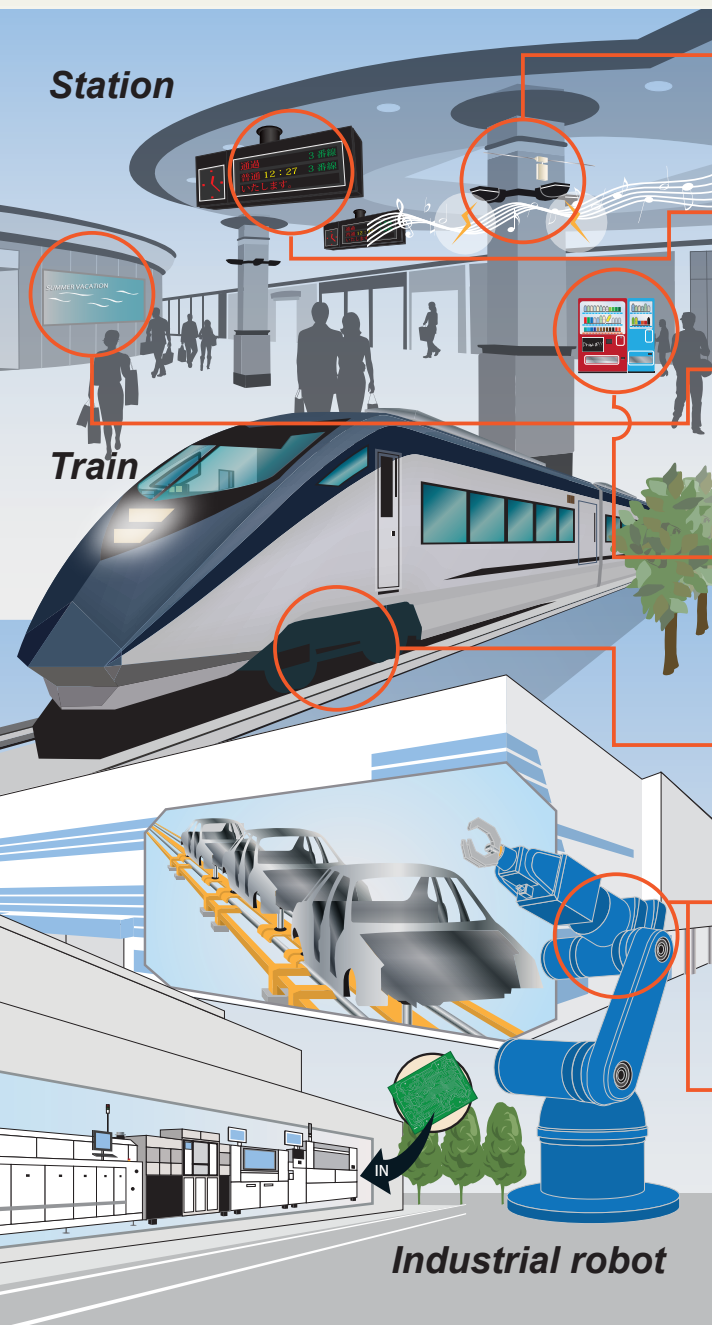
ONU

Laser printer

Mounting line



ノロジーは私たちの暮らしを支えています。



Station

Train

Industrial robot

■ ワイヤレスマイクロホンシステム

JR・私鉄・地下鉄の駅構内における発着案内、緊急連絡、発車ベル等の遠隔制御で列車運行の安全・安心および定時運行を支えています。



■ サインボード

LEDを使ったドットマトリクスで文字を表示します。駅やバスで行き先を表示したり、さまざまな情報を伝えるツールとして活躍しています。



■ 看板用 LED 照明

独自の光学設計によるレンズ効果で、より薄く、ムラのない発光面を実現。省スペース、省エネ、長寿命で美しい看板を作り、高いシェアを頂いています。



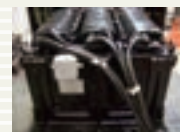
■ 自動販売機用 LED 製品

シェア70%を誇る商品選択ボタンをはじめ、価格表示ユニット、金額表示器は、自動販売機の重要部品。LED照明は、蛍光灯の約1/8の消費電力で省エネに貢献しています。



■ 鉄道用トランス

鉄道車両に搭載され電圧を変換する部品。厳しい環境下においても鉄道の高信頼性・安全性を支えます。



■ トランス・リアクタ

ロボットや工作機械等における、トランスは電圧変換、リアクタは電圧制御やノイズ除去のための基幹部品。機器の高性能化・高信頼性化に貢献します。



■ 電流センサ

電気製品を動かす源は、電流と電圧です。特に電流の動きは、製品の安定動作に重要です。ロボットなどの産業機器に使われ、正確で安定した動作を支えます。



収益性の拡大を最大の目標に掲げる中期経営計画の下、
当期純利益は1985年3月期 (2,567百万円) 以来の過去最高益を更新。

連結貸借対照表

単位：百万円

	当期 (第92期) 2015年3月31日現在	前期 (第91期) 2014年3月31日現在
資産の部		
流動資産	52,968	49,986
現金・預金	11,816	12,245
受取手形・売掛金	23,684	21,644
たな卸資産	14,411	13,324
繰延税金資産	624	471
その他	2,430	2,300
固定資産	27,287	24,781
有形固定資産	19,762	19,782
建物・構築物	7,250	7,118
機械・工具・車両	5,342	5,066
土地	6,130	6,714
リース資産	479	422
建設仮勘定	560	460
無形固定資産	1,536	1,470
のれん	721	640
リース資産	299	332
その他	514	497
投資その他の資産	5,988	3,528
投資有価証券	4,019	2,202
退職給付に係る資産	904	—
繰延税金資産	287	563
その他	776	761
資産合計 ※1	80,255	74,767

※1 総資産は前期末比54.9億円増加
受取手形・売掛金及びたな卸資産が増加したこと等により流動資産が29.8億円増加し、また主に投資有価証券が増加したことにより固定資産が25.1億円増加いたしました。

※2 有利子負債は前期末比3.7億円減少
有利子負債減少の主な要因は、長期借入金が返済により減少したことによります。

単位：百万円

	当期 (第92期) 2015年3月31日現在	前期 (第91期) 2014年3月31日現在
負債の部		
流動負債	23,427	24,736
支払手形・買掛金	11,656	12,286
短期借入金・ 1年内返済長期借入金 ※2	6,778	7,503
リース債務 ※2	371	364
その他	4,621	4,581
固定負債	18,663	18,136
長期借入金 ※2	14,913	14,552
リース債務 ※2	546	562
退職給付に係る負債	2,765	2,578
その他	437	442
負債合計	42,091	42,872
純資産の部		
株主資本	34,852	31,798
資本金	11,829	11,829
資本剰余金	17,173	17,172
利益剰余金	6,138	3,077
自己株式	△ 288	△ 281
その他の包括利益累計額	3,113	△ 78
その他有価証券評価差額金	437	129
繰延ヘッジ損益	2	△ 8
為替換算調整勘定	3,291	939
退職給付に係る調整累計額	△ 617	△ 1,138
新株予約権	115	99
少数株主持分	82	75
純資産合計 ※3	38,164	31,895
負債純資産合計	80,255	74,767

※3 純資産は前期末比62.7億円増加
当期純利益31.1億円の計上により利益剰余金が30.6億円増加し、また為替換算調整勘定が23.5億円増加いたしました。

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

単位：百万円

	当期 (第92期) 2014年4月 1日から 2015年3月 31日まで	前期 (第91期) 2013年4月 1日から 2014年3月 31日まで
売上高 ※1	86,248	81,176
売上原価	62,759	60,134
販売費及び一般管理費	19,459	18,632
営業利益 ※1	4,029	2,409
営業外収益	671	1,004
営業外費用	602	521
経常利益	4,098	2,891
特別利益	172	282
特別損失	174	432
税金等調整前当期純利益	4,097	2,740
法人税、住民税及び事業税	972	864
法人税等調整額	19	67
少数株主損益調整前当期純利益	3,106	1,808
少数株主利益	0	10
当期純利益 ※2	3,106	1,797

連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

	当期 (第92期) 2014年4月 1日から 2015年3月 31日まで	前期 (第91期) 2013年4月 1日から 2014年3月 31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,132	2,940
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,888	△ 3,475
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,839	1,335
現金及び現金同等物期末残高	11,689	11,973

※1 売上高は6.2%増収、営業利益は40.3億円
高付加価値品の創出と、ターゲット市場への拡販を推進した結果、営業利益は前期比で67.3%増加の40.3億円となりました。
詳しくはP5～P6のセグメント別概況をご参照ください。

※2 当期純利益は31.1億円
過去最高益（1985年3月期25.7億円）を30期ぶりに更新いたしました。

連結株主資本等変動計算書

単位：百万円

当期（第92期）2014年4月1日から2015年3月31日まで													
	株主資本					その他の包括利益累計額					新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他の有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計			
2014年4月1日残高	11,829	17,172	3,077	△ 281	31,798	129	△ 8	939	△ 1,138	△ 78	99	75	31,895
当期変動額													
剰余金の配当			△ 492		△ 492								△ 492
当期純利益			3,106		3,106								3,106
自己株式の取得				△ 9	△ 9								△ 9
自己株式の処分		0	△ 0	2	1								1
連結範囲の変動			447		447								447
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）						308	10	2,352	521	3,192	15	7	3,215
当期変動額合計	—	0	3,060	△ 7	3,053	308	10	2,352	521	3,192	15	7	6,269
2015年3月31日残高	11,829	17,173	6,138	△ 288	34,852	437	2	3,291	△ 617	3,113	115	82	38,164

社 名 株式会社タムラ製作所
英文社名 TAMURA CORPORATION
設 立 1939 年11月21日
資 本 金 11,829百万円
従業員数 連結5,874名 単独866名

ホームページ アドレス
<http://www.tamura-ss.co.jp/>



役 員 (2015年6月26日現在)

代表取締役社長	田村 直樹	常勤監査役	久保 肇
取締役常務執行役員	李 国華	監査役	守屋 宏一
取締役常務執行役員	浅田 昌弘	監査役	戸田 厚司
取締役	蓑宮 武夫	上席執行役員	清田 達也
取締役	石川 重明	執行役員	舞木 孝一郎
取締役上席執行役員	中島 康裕	執行役員	末田 直一
取締役上席執行役員	南條 紀彦	執行役員	柴田 誠治
取締役上席執行役員	齋藤 彰一	執行役員	小波藏 政玄
取締役上席執行役員	橋口 裕作		

タムラグループ企業 (主な連結子会社)

国内

(株) 光波	(株) 会津タムラ製作所
(株) タムラサーマルデバイス	(株) タムラ流通センター
(株) 若柳タムラ製作所	

海外

田村香港 (有) [中国]	(株) 韓国タムラ
田村電子 (深圳) (有) [中国]	タムラ化学韓国 (株)
田村電子 (惠州) (有) [中国]	タムラシンガポール (株)
田村 (中国) 企業管理 (有)	タムラ電子 (マレーシア) (株)
田村精工電子 (常熟) (有) [中国]	タムラ化研 (マレーシア) (株)
安全電具 (惠州) (有) [中国]	タムラタイランド (株)
田村化研 (東莞) (有) [中国]	オブシード (BD) (株) [バングラデシュ]
上海祥楽田村電化工業 (有) [中国]	タムラ・ヨーロッパ・リミテッド[英国]
田村電子材料 (天津) (有) [中国]	タムラ化研 (英国) (株)
田村自動化系統 (蘇州) (有) [中国]	タムラ・コーポレーション・オブ・アメリカ
田村科技 (股) [台湾]	タムラ電子 (メキシコ) (株)
田村化研科技 (股) [台湾]	タムラ化研 (アメリカ) (株)

※ (株) タムラサーマルデバイスは2015年4月1日付で当社に吸収合併しております。

発行可能株式総数 252,000,000株

発行済株式の総数 81,995,960株 (自己株式775,513株を除く)

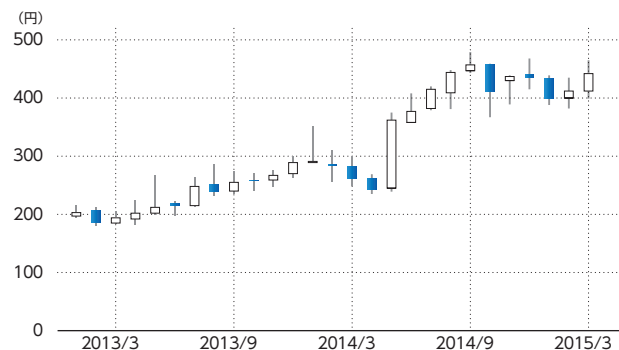
株主数 11,309名

大株主 (上位10名)

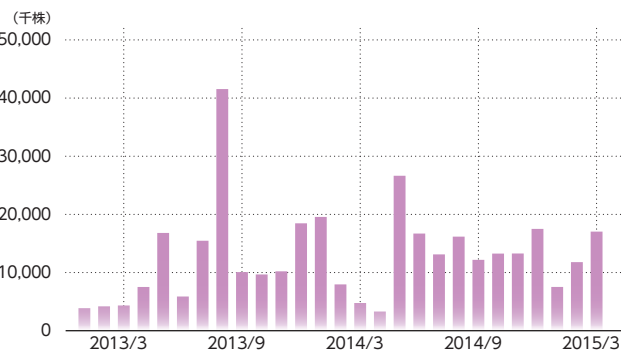
株 主 名	当社への出資状況	
	持株数 (千株)	持株比率
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	3,889	4.74%
タムラ協力企業持株会	3,449	4.20%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	3,264	3.98%
株式会社三井住友銀行	3,200	3.90%
株式会社みずほ銀行	2,799	3.41%
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY	2,450	2.98%
株式会社りそな銀行	1,911	2.33%
三井住友信託銀行株式会社	1,412	1.72%
三井住友海上火災保険株式会社	1,366	1.66%
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	1,163	1.41%

(注) 持株比率は、自己株式775,513株を除いて算出しております。

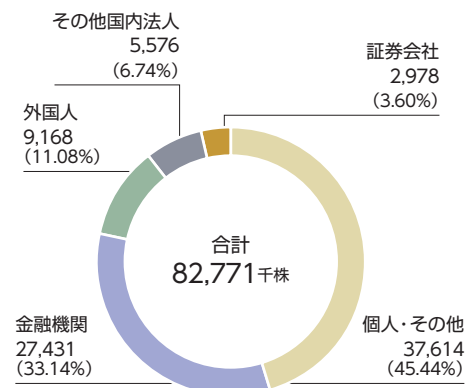
株 価



出来高



所有者別株式分布状況 (単位：千株)



(注) 自己株式775,513株 (0.93%) は個人・その他に含まれております。

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日
そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

公告方法 電子公告 (<http://www.tamura-ss.co.jp/jp/finance/index.html>)

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

**株主名簿管理人
事務取扱場所** 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎ 0120-782-031

**(インターネット
ホームページURL)** <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

【特別口座について】

**特別口座の
口座管理機関** 三井住友信託銀行株式会社または
三菱UFJ信託銀行株式会社

（ご注意）

当社は平成23年8月1日付で株式会社光波を株式交換により完全子会社化しておりますが、同社株式を保有されていた株主様の内、特別口座に記録された株式の特別口座の口座管理機関は三菱UFJ信託銀行株式会社となりますので、ご留意ください。

【株式に関する手続きについて】

- お受け取りがお済みでない配当金を受け取る手続き
三井住友信託銀行株式会社までお申し出ください。
- その他の手続き
(1) 証券会社に口座をお持ちの場合：お取引の証券会社へお申し出ください。
(2) 証券会社に口座をお持ちでない場合（特別口座で管理されている場合）：右記お問い合わせ先へお申し出ください。

（お手続きの例）

ご住所を変更される場合
今後の配当金のお受け取り口座のご指定をされる場合
単元未満株式の買取・買増のご請求をされる場合など

単元未満株式の買取・買増請求について
証券取引所で売買できない、1,000株未満の株式（単元未満株式）については、買取・買増のご請求により整理することができます。

- 単元未満株式の買取請求（当社に株式の買取りをご請求いただき、1,000株単位としていただく方法）
（例）株主様のご所有の1,500株のうち、当社が500株を買い取ります。
→ 株主様のご所有の株式は1,000株となります。
- 単元未満株式の買増請求（当社から株式を買い増して1,000株単位としていただく方法）
（例）株主様のご所有の1,500株に加え、当社から500株を買い増します。
→ 株主様のご所有の株式は2,000株となります。

お問い合わせ先

三井住友信託銀行株式会社
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
☎ 0120-782-031

三菱UFJ信託銀行株式会社
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
☎ 0120-232-711

株式会社タムラ製作所

<http://www.tamura-ss.co.jp/>

当冊子に関するお問い合わせ先：
〒178-8511 東京都練馬区東大泉一丁目19番43号
TEL 03-3978-2111

